

豊庄だより



第 675 号 2021 年 8 月 30 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

前号（674号）でも書きましたが、感染力の強いデルタ株による感染者数が右肩上がりに増加しています。特に保育園ではクラスター（感染者集団）が福岡市でも発生しており、臨時休園する施設も出ています。福岡市のホームページの日別事例数を見ますと、連日 10 歳未満、1 歳未満の感染者が出ていることが確認できます。特に 8 月上旬からその数は連日見ることができ、子どもの感染が急増していることを裏付けています。

先日の新聞（毎日新聞朝刊 8 月 25 日付）に、「相次ぐ保育園クラスター」という見出しで大きく取り上げられていました。引用が少し長くなりますが、紹介します。

▼「どうしても子ども同士の距離が近くなるので防ぎようがない。休園によって、働く親の子どもを預かることができず社会に迷惑をかけてしまった」。関東地方にある認定こども園の理事長は語る。▼この施設では 7 月中旬、園児ら計 20 人が新型コロナに感染するクラスターが発生。無症状や症状の軽いケースがほとんどだったが、2 週間の休園を強いられた。食事中はパーテーションを設置したり、園外で園児の受け渡しをしたりと感染対策を講じていた中での出来事だった。▼保育園では、クラスターが発生していなくても感染者が 1 人出れば休園になるケースも多い。19 日時点で全国の 165 施設が臨時休園しており、1 カ月前の約 4 倍に上る。▼北海道医療大の塚本容子教授によると、保護者や家族の体調が悪い時に子どもを保育園に預けたり、保育士同士が昼ご飯を一緒に食べたりして感染が広がった例もあるという。「デルタ株は今までと異なり、子ども同士でも感染が拡大するので施設に持ち込まないことが重要。保育園では、子ども同士が密着したり、マスクを着けられなかったりする。また、感染リスクの高いおむつの交換や抱っこなど、保育士と園児の接触も避けられないので感染対策が難しい」と指摘する。▼事業所や国も対策に乗り出している。保育園を運営する「ライクアカデミー」（東京都渋谷区）系列の都内の保育園は、年齢ごとに部屋を分けたり、園庭で遊ぶクラス数を制限したりして接触を減らしている。女性園長（62）は「大人から子どもに感染させないために、職員や保護者への注意喚起を徹底している」と話す。▼厚労省は年末をめどに、保育園など児童福祉施設での新型コロナ感染防止対策の指針を作成し、来年度からの活用を目指す。厚労省の担当者は「社会機能を維持するためには、保育園の運営継続が必要との声もある。内容を詰めていく」と話した。▼塚本教授は「子どもを預けられないと保護者が働けなくなり、社会的な影響だけでなく経済的な損失も大きい。子どもの成長には、保育士や子ども同士が触れ合って愛着を形成することが重要で、感染予防さえできればいいのではなく、保育と感染対策のバランスを考えなければいけない」と指摘する。



7 月 20 日

保育には、保育士と園児との接触はさけることはできず、保育と感染対策のバランスはとても難しいものがあります。豊庄保育園では、全職員、2 回のワクチン接種を終えました。ワクチンの有効性の問題がありますが、この点での対策はできたと思っています。先週の金曜日から、小中学校の授業が始まりました。人の動きが増し（人流の増加）、感染の拡大につながらないことを祈っています。